

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	青年教育促進事業			事業コード	1360
所属コード	204100	課等名	生涯学習課	係名	
課長名	作山 智規	担当者名	大庭 治彦	内線番号	7345
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	共に生き未来を創る教育・文化	コード	4
	施策	いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築	コード	2
	基本事業	社会教育の充実	コード	2
予算費目名	一般会計 10 款 6 項 1 目 青年教育促進事業（026-01）			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	不明
根拠法令等	教育基本法，社会教育法			

(2) 事務事業の概要

実行委員会を組織し、「成人のつどい」を開催する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

国民の祝日に関する法律における「成人の日」の制定による。

成人として、自らの力で何かを行う式典とし、大人への一歩として意義あるものにしたいという趣旨で、二十歳を中心とした青年が集まり、実行委員会が発足した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

実行委員へ応募する新成人のが少なくなっているため、周知方法等を工夫する必要がある。

また、企画内容において、「市民としての自覚喚起」や「社会参加意識の向上」という趣旨が薄れている傾向が見られることから、企画内容について熟議、検討する必要がある。

2 事務事業の実施状況 (Do)・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

市内在住の新成人、市内に帰省先のある新成人、市内に通学している新成人、又はかつて住んでいたことがある新成人。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 新成人	人	3,458	3,380	3,301	3,301	3,378

B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

- ・実行委員の募集（新成人 12 名）
- ・実行委員によるアトラクションの企画及び記念誌の作成
- ・該当者等調査，式典運営事務委託
- ・関係部署，社会教育関係団体に対する協力依頼
- ・成人のつどいの開催

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 成人のつどい実行委員会開催回数	回	14	14	17	14	13
B 成人のつどい実行委員会人数	人					
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

人生の節目である二十歳の式典を催すことにより，成人に達した男女の新しい門出を祝福するとともに，新成人に社会の一員となることを改めて認識させ，明日の盛岡市を支える市民としての自覚を喚起し，社会への参加意識を高める。また，新成人を中心とした実行委員会を組織しての企画運営により，青年リーダーの養成を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 成人のつどい参加者数	□上げる □下げる ■維持	人	2,414	2,280	2,248	2,250	2,213
B 成人のつどい参加率（参加者数/新成人人数）	□上げる □下げる ■維持	%	69.8	71.4	68.1	68.1	65.5
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0

	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	3,579	3,579	3,635	3,694	3,678
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	3,579	3,579	3,635	3,694	3,678
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	900	900	1,000	1,000	780
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	3,600	3,600	4,000	4,000	3,120
計	トータルコスト A+B	千円	7,179	7,179	7,635	7,694	6,798
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

人材育成を図る事業のうち、青年層に対する事業であり、整合性がある。

② 市の関与の妥当性

市民を挙げて新成人の前途を祝福し、地域社会を支える人材を育成しているものであり、公共が関与し推進すべき事業である。

③ 対象の妥当性

新成人という特定の者を対象とした事業であるため、対象は妥当である。

④ 廃止・休止の影響

成人のつどいは、広く市民に浸透しており、廃止は市民の理解を得られない。また、実行委員会の廃止や休止は青年リーダーの育成に支障をきたす。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

成人のつどい関係者へのアンケート結果等により、式典の運営方法並びに実行委員の募集及び会議運営方法の改善について多くの意見が寄せられており、改善の余地がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

新成人全員を対象としていることから、公平・公正である。

(4) 効率性評価

民間やNPO法人等との協働をより一層強めることにより、経費削減の余地がある。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	生涯学習の推進	コード	18
	小施策（推進項目）	社会教育の充実	コード	1

（2）改革改善の方向性

実行委員の募集方法（募集時期を早める、周知媒体を増やす等）を改善することで、委員の確保を行っていく。

新成人の「市民としての自覚喚起」及び「社会参加意識の向上」を促すために、アトラクション及び記念誌の内容について検討していく。

受付・退場時等、人の混雑が見られる箇所での誘導方法や、式典中の混乱を防ぐための職員配置について改善を図る。

会場の盛岡市アイスアリーナが通年催事場化した場合、参加者の不満軽減や会場設営の負担軽減が見込まれる。

（3）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

実行委員会を構成する新成人リーダーの発掘が必要であり、多くの機関や関係者の協力が必要であることから、連携を強化していく。

社会教育の観点から実行委員の自主性及び主体性を尊重した企画運営が求められるが、新成人の市民としての自覚喚起を促す必要性もあることから、実行委員会と教育委員会との更なる連携及び意識共有を図っていく。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

「成人のつどい」は、市内の新成人が一堂に会し、明日の盛岡市を支える市民としての自覚を新たに作る大切な式典である。従前の実施内容等を十分に検証し、開催趣旨に沿ったより有意義なイベントとなるよう検討を重ねていく必要がある。

また、実行委員会の活動は、青年教育の一環であることを、各実行委員及び関係者・職員は意識して取り組むこととする。